

西林木町、奥ノ谷町内の国道四三二号線沿いに、地区の人々は昔から「御所さん」と呼んでいる一基の宝篋印塔ほうきゃういんとうがあります。

宝篋印塔には台石はなく、頭は折れて現存しませんが、梵字四字が彫られています。

この宝篋印塔のある場所は、昔「御所山」という地名の一角にありましたが、近代この山は削られ国道四三二号が造られました。また、近くには、京都の貴船神社から姫様が嫁いでこられたという「貴船床」と呼ばれている平らな丘があります。

古老の話では、「御所山」は林木が天皇家領の荘園時代に荘園領主が住んでいた屋敷の跡だとの事です。

一説には、宍道町の大森神社元社家にあつた古文書に

「十七世康朝朝臣室、具平親王女阿野姫、天喜二年（一〇五四）卒。林木郷御所山麓に墓有り。故ありて密葬す」

という記載があつて、この宝篋印塔は、平安時代・村上天皇の七番目の皇子、具平親王の子女・阿野姫の墓ではないかと言われています。平安時代の具平親王には二人の王子と三人の王女の存在が記録されています。

第一王子は藤原頼成 ・ 第二王子は源師房（右大臣 村上源氏の祖）

第一王女は隆姫（藤原頼道の妻） ・ 第二王女は敦康親王妃

第三王女は埴子女王（藤原教通の妻）

当時 風流人で名が知られた具平親王は、紫式部の恋人かとも言われ「源氏物語」のモデルかとも言われていました。

結婚する以前には女官と恋仲になり子どもを生ませたらしい記録もあります。

「阿野姫」はおそらく、妻王子以外に生ませた子女、空想を広げれば紫式部の子女かとも考えられ、「故ありて密葬す」という言葉の裏には平安時代のきらびやかな文化と摂関政治がからまつた複雑な絵巻が浮かんでくるようです。

近くの旧家では毎年七五三注連縄を飾り、榊を供えて「御所さん」を祀っておられますが、何人の墓であるか、年代姓名ともに不明であります。

他の一説には、戦国時代・毛利元就が広瀬の月山攻略が容易に進まないで、武将達の軍気が喪失することを恐れ、京の都から歌人等を迎え、歌、連歌、蹴鞠などの遊戯をさせたが、その歌人等の墓だといふ伝説もあります。

